

< Vol.22 の記事 >

## アルゼンチン戦 チケット 希望者で抽選！

### なぜ、総合型地域SCなのか？！（くどいようですが・・・）他

#### 【アルゼンチン戦チケット！】

11月20日(水)埼玉スタジアム19:20キックオフで開催されます日本代表対アルゼンチン代表のチケットが、県内クラブ枠で12枚購入できました。

C2(バックスタンド) 7,500円×8枚

C1(ゴール裏) 4,000円×4枚

希望者が大勢いると思われまますので、抽選にすることにします。会員(もちろん保護者の方も可です)で希望される方は、11月8日までに事務局まで希望する席種と枚数をお申し出ください。なお、希望者多数が予想されますので、一人2枚までにさせていただきます(1枚でも可)。

抽選結果は、9~10日の練習時にお知らせし、当選された方には、原則として現金と引き換えでチケットをお渡しします。

#### 【総合型地域SCを目指す理由】

自分達だけでは、何もできない

浦スポでは、現在5チームが公式戦に出場していますが、こういった公式戦があるのは、すべてこれを運営してくれている方々のおかげといえます。

大会の連絡をしてくださる方、グラウンドの用意をしてくださる方、審判の方・・・こういった方々がいなければ、公式戦などはできません。空き地でミニゲームだけをしているだけならば必要ありませんが、公式戦で活動するためには、こういったプレイヤー以外の活動がなくてはならないのです。

プレイしている自分だけが特別なのではないということ、誰かがやってくれるから・・・ではなく、誰もがやらなくては続けられないことなのです。

これまで、こういったことの多くは無償のボランティアの努力で支えられてきました。少年団の指導・運営なども同様かと思えます。

しかし、活動が活発になればなるほど、運営の仕事量は膨大になり、ボランティアでは負いきれなくなります。これにより、活動が停止に追い込まれるケースも考えられます。

一方で、ボランティアでやってもらっているのだ

から・・・と、運営の不備などを指摘することもしづらくなるという現象も生みかねません。

活動を安定的より良い状態で続けていくためには、個人の頑張りではなく、組織にして、なるべく多くの人たちで分担していく必要があります。

サッカーだけが特別じゃない

埼玉県はサッカーどころと言われる地域ですが、実際に市内でサッカー場の数は、おそらくは200以上のサッカーチームがあることを考えると、けっして多いとはいえません。なぜでしょう？

サッカーをやっている人は極一部であり、実際にはサッカーをしない人の方がたくさんいるからです。

サッカーだけではなく、スポーツ全般にしても、日常的にスポーツに親しんでいる市民は、全体のほんの1割にも満たない程度とされています。

そんな少数派のために、多額の税金を投じて施設が用意されることはなかなか認められないと考えるほうが自然です。

スポーツをしていない他の9割の人たちが、「そんな施設は無駄だから、他のことに使わせろ」と言いだした途端に、今より練習場所が減る可能性もあるわけです。

健康医療費の増大は、若者に降りかかってくる！

高齢社会をむかえ、高齢者の保険医療費は増大する一方です。これらの社会保険を支えるのは、これから社会にでていく若者になるわけですが、少子化により人数が減っており、一人あたりの負担はますます重くなるのが懸念されています。

病院に通わないで、元気な人が増えてくれないと、それこそサッカーをしている場合ではなくなります。

家の中にひきこもったり、なんとなく病院に通っている人を減らすためには、元気に活動してもらう機会を提供することが効果的です。

初心者にはとっつきにくい既存のチーム

スポーツや文化活動などで余暇を楽しみ健康に暮

らす人が増えることが望まれますが、学校を卒業した途端に、そのようなことをする機会が激減します。特に、ある種目をやりたくなくても、初心者は相手にしてくれるだろうか・・・という不安が先立つことが多いようです。ちょっと悲しい話ですが、実は駒場サブのサッカー広場でもすでに同じようなことが起きています。少年団でやっている上手な子が、初心者の子にむかって「下手くそ!」と言って、ボールを回してくれないそうです。こんなことをやっていたら仲間が増えるわけがありません。上手な子だけのための広場ではありません。そんな活動が認められるわけがありませんので、仲間が減れば、自分達も駒場サブでできなくなるのです。数が減れば自分達が優先的に使えるのではなく、数が減れば自分達も活動しにくくなるのです。

#### もったいない公共施設の空いている時間

サッカー場の数は十分でないと書きましたが、実際には、学校の校庭やサッカー場も空いている時間がたくさんあります。でも、自由に使わせてもらえないのが現状です。管理の問題があるからです。グラウンドの整備のこと、怪我などをした時のこと、そういったことを考えると、学校や行政がなんでもかんでも「自由に使っていいよ」とは言えないことも理解できます。四六時中監視・管理できればそれも可能かもしれませんが、そのためにはそこで働く人の人件費がかかります。財政難の現在において、そのような費用はとても役所では確保できません。

自分の仕事で考えてみても、給料が変わらないのに、仕事量や時間が増えるのではたまったものではないことが理解できるかと思えます。

でも、駒場のサブも、学校の校庭も空いている時間が確実にあります。数人の練習で半日グラウンドを確保されていることもあります。もったいないのです。

#### このままでは、将来の活動は保証されない

さいたまスタジアム取り壊し論・・・というのがありました。「毎年5億円近い赤字をこの先何十年も続けるくらいならば、いっそのこと壊してしまった方がいいのではないか」というものです。極論ではありますが、サッカー、スポーツに対して多くの県民が理解を示してくれない限り、ジョークで済まされない問題であると思えます。

スポーツをする仲間が減り、行政がますます財政難になっていったとすれば、今の仕組みのままでは、好きなサッカー（スポーツ）を続けられなくなる・・・そんな可能性は低くありません。

#### みんなが仲間になるのが結局は近道

そこで、総合型地域SCなのです。責任ある組織

となることで、責任をもって施設を借り上げ、自分達で仲間の間の調整を行えば、施設を有効に利用できます。初心者でも誰でも受け入れることが可能な活動を展開していくことで仲間が増え、元気な地域になります。それが、結局は自分達のためになる・・・自分達がサッカーを続けるために・・・とご理解ください。

#### 【宮城県小牛田町では小学校の校庭を芝生に！】

毎日新聞からの抜粋紹介です。さいたまでも、雑草でもいいからダスト舗装はやめてほしいですね。そうすれば、スライディングタックルも上手になるだろうに！

「宮城県小牛田町は、町立小学校全5校の校庭を5年間かけて土から全面芝生に変更する方針を固めた。子どもたちが自由に駆け回って遊べる環境にすることで、伸び伸びとした心身の成長を促す狙い。

同町は県北部の農村地帯だが、町教委によると、近年「土で汚れたら洗濯が大変と、お母さんに怒られる」などと昼休みも教室から出ない子供が多くなった。どうしたら子供を外に連れ出せるか検討し、校庭の芝生化にたどり着いた。「校庭の土ぼこりが飛んで困る」という周辺住民からの苦情も解消する。

同町教委の試算では、全面芝生化は1校当たり2000万円以上の費用がかかる。このため、今年度の補正予算から毎年1校のペースで5年後には全5校の芝生化が実現する。

刈り込みや散水の維持管理は、校庭開放制度を利用するスポーツ少年団やグラウンドゴルフクラブのお年寄りに協力を求め、経費を節約する。」

#### 【市民大会(一般の部)始まる】

さいたま市民浦和体育大会の一般の部が10月20日から始まりました。本年度は、シニア所属を除く35歳以下のメンバーをA（浦和SC） B（USC彩）に分けて登録しました。昨年は3チームを登録し、シニアチームまで出場しましたが若者との力の差はいかんともしがたく、本年は断念しました（リーグ戦も残っているし）。ABの振り分けについては、希望を確認する時間が十分にとれなかったことから、コーチと相談の上割り振らせていただきました（ごめんなさい）。登録者には、メンバー表と日程表をお渡しますので予定を確認してください。

浦和SCニュースは、クラブ内の情報交換を図ることを目指して発行しています。

外部へのPRにもどんどん利用してください。必要があれば部数をお送りします。事務局までご連絡ください。

発行は不定期になることをご了承ください。